

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	79人	算数	79人	理科	79人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	64人	算数	64人	理科	64人
------	----	-----	----	-----	----	-----

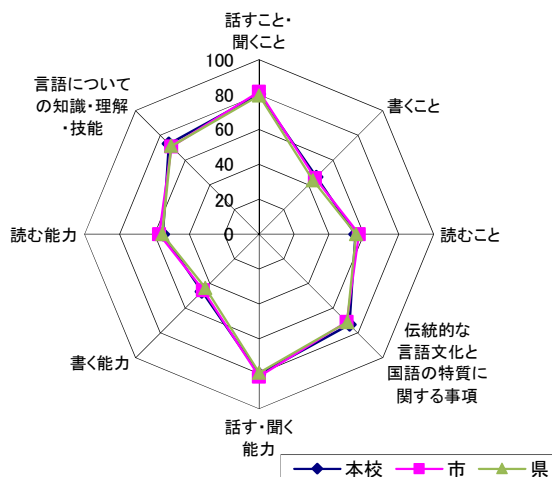
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.2	81.6	79.4
	書くこと	46.4	45.4	43.6
	読むこと	55.1	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.2	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	80.2	81.6	79.4
	書く能力	46.4	45.4	43.6
	読む能力	55.1	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	73.2	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

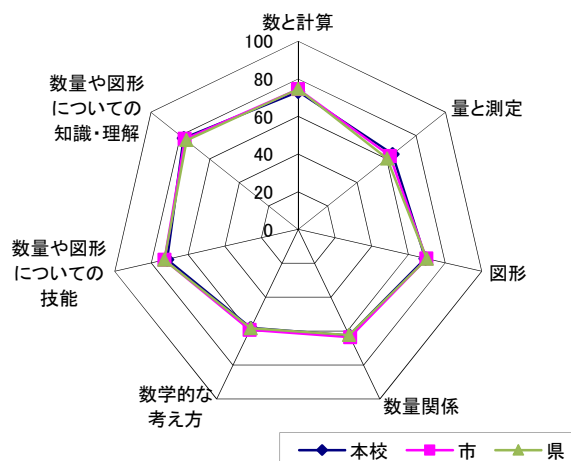
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は80.2%で、県と比べ0.8ポイント高く、市と比べ1.4ポイント低くなっている。 ●話し合いにおいて司会者の役割を理解し発言を整理する問題の正答した集団とできなかった集団の差が66.7%と大きくなっている。 ●話し合いにおいて司会者の役割を理解し発言を整理する問題の無回答率が22.2%と高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、適切な言葉遣いや文末まで話すことを身に付けさせるようにする。また、相手の意図を理解しながら、自分の考えを返すことができるように指導していく。 ・話し合い活動を充実させ、すべての児童に司会者を経験させることで、話し合いにおける司会者の役割を理解し発言を整理することができるようにする。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は46.4%で、県と比べ2.8ポイント、市と比べ1ポイント高くなっている。 ○メモや友達の意見を基に、報告レポートの内容を書く問題の正答率は40.5%で、県と比べ6.5ポイント、市と比べ5.1ポイント高くなっている。 ●記述式問題すべてにおいて、正答した集団とできなかった集団との差が68.5%、50%、79.6%と大きくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も授業の中で自分の意見を書く活動を重視する。また、複数の資料を基に自分の意見をまとめて書く活動の時間を確保し指導していく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は55.1%で、県と比べ0.4ポイント、市と比べ2.1ポイント低くなっている。 ○段落の要点を捉えて読む問題の正答率が89.9%で、県や市と同様に高い結果であった。 ●文章を読んで感じたことや考えたことを発表する問題の正答率が県や市と同等ではあるが7.6%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において、朝の読書の時間だけではなく、読書の時間をできるだけ設定することで、長文に触れる機会を増やしていく。 ・本を読んだ感想を友達に伝えたりカードに書いたりする活動を通して、文章を読んで感じたことや考えたことを伝える機会を増やしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は73.2%で、県と比べ1.8ポイント、市と比べ2.1ポイント高くなっている。 ○国語辞典の使い方問題の正答率は82.3%で、県と比べ12ポイント、市と比べ13.5ポイント高くなっている。 ●日常使われている簡単な単語のローマ字による書き方の問題の正答率が34.2%で、県と比べ17ポイント、市と比べ10.4ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字での指導時間が少ないことから、パソコン使用時のローマ字入力やキーボードゲームなどの活動を積み重ねながら習熟を図るようにする。 ・文法的な用語については、機会あるごとに指導していく、確実な定着を目指す。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.2	74.5	74.6
	量と測定	64.2	62.4	60.4
	図形	69.3	69.9	70.1
	数量関係	62.5	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	58.2	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	71.5	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	77.8	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

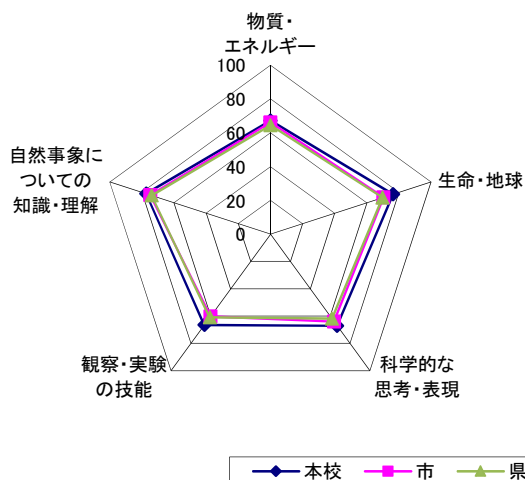
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、73.2%と県や市と同程度である。 ○かけ算の仕組みを正しく表す数を書き入れる問題では、82.3%、計算の順序に合うように、()を書き入れる問題では、73.4%とよくできている。特に計算の順序に合うように、()を書き入れる問題では、県や市と比べ2.5ポイント高くなっている。 ●3位数×2位数=4位数では、51.9%で県や市と比べて12ポイント低くなっている。 ●わけを説明する問題の正答率は県や市と同等ではあるが、24.1%と低い数値になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則の計算については、計算ドリル、百ます計算などを活用し、正確さの向上を目指す。また、繰り上がりのある計算を多く取り入れて計算力を高めていく。 ・長文の場面設定に慣れるために、意図的に長文問題に取り組みさせる。また、どうしてそう考えたのかを資料を基に説明できる力を育てていく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、64.2%と県や市と同程度である。 ○およその重さを選ぶ問題では、69.6%、ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める問題では、44.3%の正答率であり、どちらも県と市と比べ6~7ポイント高くなっている。 ●重さを読み取り、重さを求める問題の正答率は54.4%で、県とは同等であるが、市と比べると6ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を読み取り、記述する問題に課題がある。文章問題に取り組む機会を多くしたり、解決の仕方を友達同士で説明するなど、表現し伝え合う活動を取り入れていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、69.3%と市や県と同程度である。 ○領域内の無解答率は全体的に低く、1.3%程度である。 ●箱に入った同じ大きさのボールの半径の長さを選ぶ問題の正答率は51.9%で市や県の正答率と同等であるが、正答した集団とできなかった集団の差が79.2ポイントと大きな開きがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定規やコンパス、分度器などの作図に必要な基礎的機能が正しく身に付くように個別の指導を重視する。 ・図形の特徴や構成要素を視覚的に捉えさせることや、身近な物を図形としてイメージしやすくするために、実物を利用した授業展開を工夫する。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、62.5%と市や県と同程度である。 ○未知の数量を□として、数量関係を表した線分図を選ぶ問題では91.1%、□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ問題では、75.9%と、どちらも市や県の正答率と比べて、7ポイント以上上回っている。 ●棒の高さが同じでも表す人数は異なることを説明する問題の正答率は21.5%で、市と比べると8.9ポイント、県と比べると9.7ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に問題を処理する力や道筋を立てて式や言葉、図などを使いながら説明する力を高めていけるように、いろいろな見方や考え方を取り上げ、文章問題の解き方に慣れさせていく。 ・ノート指導を大切に、自分の考えを言葉や図を使ってまとめる時間を確保し、文章力を高められるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.2	66.1	64.4
	生命・地球	76.3	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	67.1	64.1	61.9
	観察・実験の技能	66.5	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	77.4	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は71.8%で県と比べ4.7ポイント、市と比べ3.5ポイント高くなっている。 ○電気の流れる通り道の名称を問う問題では、正答率88.6%と高く、県や市と比較しても13~17ポイント高くなっている。 ○虫眼鏡で集光した所の明るさと温度の変化を問う問題では、正答率が87.3%と高く、県や市と比べても8ポイント程度高くなっている。 ○ゴムをねじる回数と進む距離を問う問題では、正答率82.3%で、県や市と比べ8~10ポイント以上高くなっている。 ●物の形と重さや体積と重さの関係を問う問題では、正答率が43.0%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が定着していない部分に関して、今後、練習問題等を活用し内容の定着を図っていく。 ・今後も実験を重視し、いろいろな経験を積むことで、自然現象の意味付けができるように指導していく。 ・学習の流れとして、学習課題→予想→検証計画→観察・実験→結果→考察→まとめ、という流れを基本に授業を展開する。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は71.8%で、県や市と比べ6ポイント近く高くなっている。 ○方位を調べる道具の名称を問う問題では、正答率が92.4%と高く、県や市と比べ7~8ポイント以上高くなっている。 ○温度計の適切な操作方法(正答率83.5%)や記録から日なたの温度計を選び、その理由を説明する(正答率60.8%)は、県や市と比べて10~12ポイント高くなっている。 ●時間によるかけの変化のしかたを問う問題では、正答率が46.8%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も日常の自然現象を積極的に話題にしたり、植物や動物の飼育を推奨したりすることで、身の回りの自然に対する関心の高さを持続させていくようにする。 ・観測や測定で使用する用具の使い方については、丁寧に、継続的に指導し、誰もが実際にやってみる経験を通して、正しい知識を身に付けさせていく。 ・理科での追究の仕方を確認し、根拠に基づいた推測や理由を表現する力を育てるため、自分の言葉で書く時間を多く取り入れていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家族とのかかわりに関する項目では、「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「家の人としよう来のことについて話すことがある」「家の人と学習について話をしている」「家の人と学校でのできごとについて話をしている」が、市や県の肯定的回答率を5～10ポイント以上上回っている。家族間でのコミュニケーションが取れている様子が見られる。○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「ものごとをさい後までやりとげて、うれしかったことがある」「毎日の生活が充実していると感じている」「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」では、肯定的回答の割合が9割を超え、自己肯定感の高さがうかがえる。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」では、市や県より8～9ポイント以上上回っており、クラスの人間関係について肯定的割合が高い。今後も、児童一人一人のよさを認め、励ましながら学びへの意欲につなげていく。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「授業を集中して受けている」「友達と話合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」なども、肯定的回答の割合が9割を超えており、主体的に学習に取り組む態度を育む要因になっている。

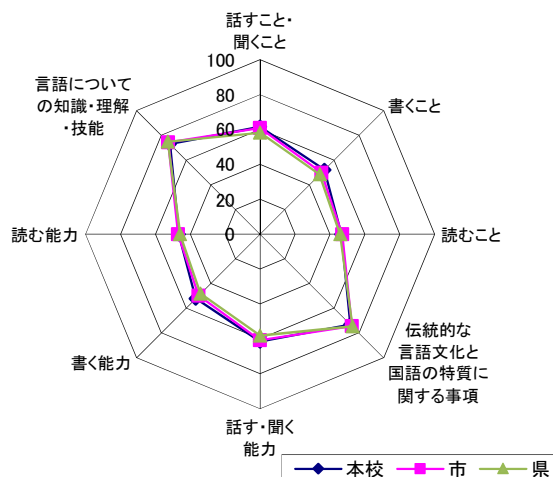
●「本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ている」「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」についての肯定的回答率は50%未満であった。本や情報機器を有効活用できるように学校生活の中はもちろん、家庭の協力も得て意識を高めていきたい。

●「算数・数学の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」については、市や県より7ポイント以上上回っており、学習のしたことを生活の中で有効活用していくことに課題が見られる。授業の中で具体的な例示をしたり、生活の中での活用場面などを紹介しながら、算数の有効性に気付かせていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	61.5	60.8	58.1
	書くこと	52.1	49.8	48.3
	読むこと	46.6	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.1	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	61.5	60.8	58.1
	書く能力	52.1	49.8	48.3
	読む能力	46.6	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	73.1	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

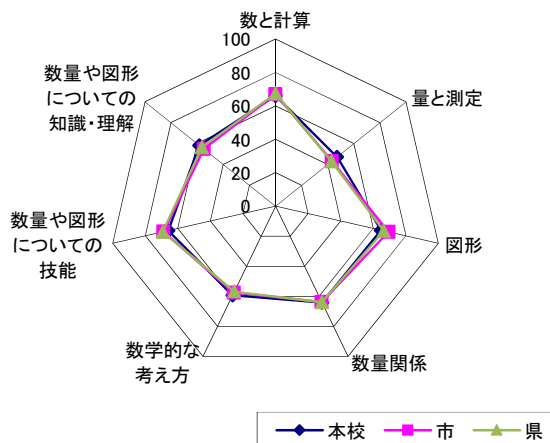
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は61.5%で、県と比べ3.4ポイント、市と比べ0.7ポイント高くなっている。 ○話し合いの中で意見の共通点を考えて書く問題の正答率が54.7%で、県と比べ7.7ポイント、市と比べ6.4ポイント高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の会話の中で、他者との考えとの共通点・相違点に注意しながら聞くことや、授業では、メモを取りながら他者の意見を聞く活動を進めていく。また、自己の考えと他者の考えを比較することで自己の考えが深まるようにしていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は52.1%で、県と比べ3.8ポイント、市と比べ2.3ポイント高くなっている。 ○インタビューの結果を基に、必要な内容を整理して書く問題の正答率は53.1%で県と比べ12ポイント、市と比べ12.4ポイント高くなっている。 ●資料(表)を基に説明する問題の正答率が26.6%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動(短作文や視写など)を積極的に取り入れる。 ・各授業において、根拠をもとに説明する場をできるだけ設定することで、説明する機会を増やしていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は46.6%で、県と比べ0.7ポイント高く、市と比べ0.4ポイント低くなっている。 ●中心となる語や文を捉えて読む問題の正答率が18.8%、物語を読み、叙述を基にして、特徴的な描写を捉える問題の正答率が29.7%と低くなっている。 ●段落の要点をとらえて要約する問題の正答率は43.8%で、県と比べ4.5ポイント、市と比べ7.4ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において、朝の読書の時間だけではなく、読書の時間をできるだけ設定することで、長文に触れる機会を増やしていく。 ・親子読書や読書リレーなど本を活用した取り組みを進めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は73.1%で、県と比べ1.7ポイント、市と比べ1.3ポイント低くなっている。 ○漢字の読み(早起きに努める)の正答率が87.5%で、県と比べ15.8ポイント、市と比べて12.4ポイント高くなっている。 ○慣用句の使い方を問う問題の正答率は81.3%で県と比べ6.2ポイント、市と比べ8.5ポイント高くなっている。 ●漢字の書き問題において正答率が48.4%と低い項目があった。 ●漢字の構成(部首 たれ)の正答率が48.4%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的事項の反復練習を徹底していく。また、各単元ごとに小テストを取り入れることで、定着を図っていく。 ・授業において、筆順だけでなく部首にも触れて指導するようにする。また、慣用句や漢字の構成の定着を図るために自主学習を活用する。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.1	66.9	67.4
	量と測定	47.2	43.2	43.0
	図形	64.8	69.4	66.5
	数量関係	64.1	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	59.3	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	65.9	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	58.3	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

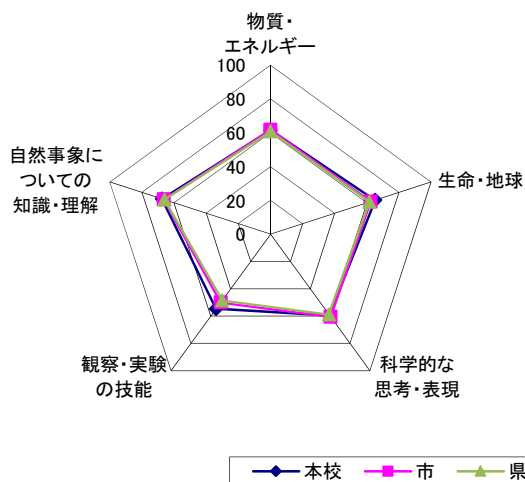
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は66.1%で、県や市と比較して同程度である。 ○値段の見積もりに関する問題の正答率は70.3%と高く、県と比べても7ポイント高くなっている。 ●小数を倍にした数を表す問題の正答率は42.2%で、県と比べて6ポイント以上低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算については、計算ドリル、百ます計算などを活用し、速さや正確さを向上できるよう日頃から指導していく。 ・数字を漢字で表したり、漢数字を数字で表したりする練習を行う。簡単な問題から徐々に桁数を多くしていくなど段階を追って指導しながら、苦手意識を取り除いていけるようにする。 ・教科書の問題だけでなく、ドリルや巻末の発展的な問題などにも挑戦させ、計算力を高めていく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は47.2%で、県や市の平均より高くなっている。 ○面積を違う単位で表したり(51.6%)、複合図形の面積を求める問題(31.3%)の正答率は、県よりも7~8ポイント高い。また、身の回りの物の面積を推測する問題の正答率は43.8%で、県や市と比べて8ポイント以上高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述式の問題に課題がある。解決の仕方を友達同士で説明するなどの表現し伝え合う活動を取り入れていく。 ・量や角の大きさを測定する体験的な活動や、様々な複合図形の面積を求める問題に数多く取り組ませ、定着を図っていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は64.8%で、県や市の平均よりやや低くなっている。 ○平面上にあるものの位置を表す問題では、正答率が82.8%と高く、県と比べて8.8ポイント上回っている。 ●与えられた2辺の続きを描いて平行四辺形を完成させる問題の正答率は46.9%で県よりも12.2ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面積の公式を繰り返し復習し、確実に覚えさせる。 ・量や長さ、大きさについては、測定する前に、概測させることで量感を高めさせる。また、実際に器具を使い測るなど、体験的な活動を多く積ませる。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は64.1%で、県や市と比較して同程度である。 ●理由や説明を記述する問題に対する正答率が18.8%と低く課題が見られた。また、2次元表の空欄にあてはまる数を求める問題では、68.8%と県平均より5.7ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフや折れ線グラフなど、さまざまなグラフの特徴を理解させるとともに、2つのグラフを比べてその違いを説明できるように言語活動の充実を図っていく。また、社会でのグラフの読み取りにも力を入れていく。 ・文章問題で題意をつかめない児童には、何を問われていて、何が分かり何が分からないのかなど、線を引いたり、言葉や図で表現させたりする。その上で、筋道立てて式や言葉、図などを使いながら説明する力を高めていくようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.5	61.7	60.7
	生命・地球	65.1	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	59.5	60.6	58.9
	観察・実験の技能	54.7	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	67.5	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は61.5%で、県や市と比べ同程度である。 ○金属の温まり方を説明する問題の正答率は93.8%で、県と比べ5ポイント高くなっている。 ●水蒸気について問う問題では正答率が26.6%で県や市と比べて約20ポイント低くなっている。また、湯気に関する問題でも正答率が28.1%と低くなっている。 ●電池のつなぎ方とおもりを引き上げる時間を関係付ける問題の正答率は46.9%で、県や市と比べ6~8ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識がしっかりと身に付いていないこと、学んだ知識を活用することができていないことが考えられる。今後の指導の重点としては、実験をしていく過程で得た知識と実験結果を関連付けながら考える、様々な場面においても得た知識からどんな結果になるか話し合う学習を取り入れ、学習展開を工夫していく。 ・学習の流れとして、学習課題→予想→検証計画→観察・実験→結果→考察→まとめ、という流れを基本に授業を展開する。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は65.1%で、県や市と比べ4ポイント程度高くなっている。 ○関節についての問題では、正答率が95.3%と高い。 ○月の動き方を問う問題の正答率は75%で、県や市と比べて約10ポイント高くなっている。 ●冷やしたコップの周りについて水滴の正体を問う問題の正答率は17.2%で、県や市と比べ7~9ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述式の問題についての正答率が低い傾向である。書く活動を重視し、事象に対して「なぜ起こるのか」を問いながら、自分の考えを適切に表現する力を育てていく。 ・日頃から自然現象に関する話題に触れることで関心を高めるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びを律する力に関する項目では「授業を集中して受けている」と全員が回答し、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」も、市や県の肯定的回答率を5ポイント以上上回っている。

○学びに向かう力に関する項目では、「自分の行動や発言に自信をもっている」が、市や県の肯定的回答率を10～15ポイント以上上回っている。「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」が自分の学習姿勢を肯定的にとらえながら学習に取り組もうとする様子がうかがえる。

○「人と話すことは楽しい」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「ものごとをさい後までやりとげて、うれしかったことがある」「毎日の生活が充実していると感じている」「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」では、肯定的回答の割合が9割を超え、自己肯定感の高さがうかがえる。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」が、市や県より5ポイント程度上回り、「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」では、市や県と同程度である。学級内でお互いの意見を最後まで落ち着いて聞こうとする様子がうかがえる。

○「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」が、市や県の肯定的回答率を5～10ポイント以上上回っている。授業で目標をもって取り組む姿勢が、家庭学習においても生かされている。

○「歴史上の人物やできごとを扱っているテレビを見たり読んだりするのは好きだ」「理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」が、市や県の肯定的回答率を10ポイント以上上回っている。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」についての肯定的回答率は60%未満であった。本や情報機器を有効活用できるように学校生活の中はもちろん、家庭の協力も得意意識を高めていきたい。

●「算数・数学の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」については、市や県より12ポイント以上下回っており、学習したことを生活の中で有効活用していくことに課題が見られる。授業の中で具体的な例示をしたり、家庭生活の中で活用できる場面がないか想起させたりして学習と日常生活が身近なところでリンクしていることを意識させたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
考えを説明したり、書いたりする力を伸ばす取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の授業や日々の実践の中で、自分の考えを書いたり、伝え合ったりする活動を意図的に位置付ける。 ○正答率が低かった問題に関する学習内容について、授業研究会を実施する。 ○2月、3月に、過去の調査問題を朝の学習や授業で実施する。(3年～5年) 	<ul style="list-style-type: none"> ○調査問題の結果から、自分の考えを説明する問題の正答率に課題が見られた。 ○質問紙において次の項目に課題が見られた。「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」が64.6%(4年) 46.0%(5年)「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意」が51.9%(4年) 55.6%(5年)「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思うか」59.6%(6年)「理科の授業で自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている」42.4%(6年)
長文読解力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○下級生の教室に市立図書館から本を借用し、学級図書を充実させる。 ○学校図書室を中心に年間を通して、読書を勧める取り組みを実践する。 ○調査問題から長文の問題を授業で扱うようにする。(3年以上) ○国語の授業において速読の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長文の問題文になると正答率が低くなる傾向が見られた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○質問紙において「算数で学習したことを生活の中で活用できないか考えている」が、5年で59.7%(県と比べ12.2ポイント低い)、4年で64.6%(県と比べ7.3ポイント低い)と低かった。	学習内容と生活を関連付けて考えられるための指導の工夫	○各教科において、学習内容と実生活との関連性について触れるようにする。特に算数において、生活に関連した問題を重視する。